



孤立と向き合う地域づくりを考える 地域円卓会議 in 繁多川

独居でも生きやすい地域とは何か、公民館と考える
～「Geshuku」プロジェクトを通じて見えてきたもの～

実施報告書

日 時： 2018 年 1 月 28 日（日）14:00-16:30
場 所： 那覇市繁多川公民館 ホール（沖縄県那覇市繁多川 4-1-38）
主 催： NPO 法人 1 万人井戸端会議
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】孤立と向き合う地域づくりを考える 地域円卓会議 in 繁多川



■日 時：2018年1月28日（日）14:00-16:30
■場 所：那覇市繁多川公民館 ホール
■着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
■来場者数：21名（行政・NPO・福祉機関・企業）

■主 催：NPO法人1万人井戸端会議
■協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO法人まちなか研究所わくわく
■お問合せ：NPO法人まちなか研究所わくわく

論点提供

南 信乃介 氏（NPO法人1万人井戸端会議 代表理事）

独居でも生きやすい地域とは何か、公民館と考える ～「Geshuku」プロジェクトを通じて見えてきたもの～

核家族化が進む現在、那覇市の一般世帯総数 135,265 世帯（2015 年）の内、単身世帯は 38.1%（65 歳以上の単身世帯 10.2%）と増加傾向にあります。そんな中、那覇市内では孤立死で亡くなる方が、91 人（男性 65 人、女性 26 人）（2012 年）もいる現状で、高齢化とコミュニティの希薄化から今後も孤立を招く状況が増していくと考えられます。繁多川でも公民館運営の中で利用者の孤立死の現状を知りました。世帯総数 4,468 世帯（2015 年）のうち独居高齢者は 898 世帯（2016 年）であり、その他、65 歳未満、障がい者を含めて孤立に立ち向かい、独居でも生きやすい地域社会づくりが求められています。そこで、離島から本島への進学した学生と、空き部屋がある高齢者を繋げた「Geshuku」プロジェクトを通して見えてきたものを共有し、一つひとつ事実を確認しながら、課題を共有する場（円卓会議）を持ちます。市民のみなさんや関係者、専門家の方々と一緒に、考えていきたいと思っています。

センターメンバー



南 信乃介
NPO 法人
1 万人
井戸端会議
代表理事



新垣 佳代子
Geshuku
プロジェクト
大家体験者



濱川 尚志
那覇市地域包括
支援センター
繁多川 所長



波平 元維
真和志地区
老人クラブ
連合会 会長



渡口 剛
CCC ローカル
株式会社
プロデューサー



岩田 直子
沖縄国際大学
総合文化学部
人間福祉学科
教授



佐久本 浩
沖縄テレビ放送
アナウンサー

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 繁多川公民館（以下：公民館）
 - ✓ NPO 法人 1 万人井戸端会議（以下：法人）が運営
 - ✓ 職員が小学校や自治会に出張して行う文化活動等への参加者と、サークル活動等で公民館を活用する方の合計は年間 6 万人程度いる。サークルでの活動者が最も多く、年間 4 万人程度いる
 - ✓ 6 万人の内の、約 8 割は高齢者、その他に視覚、聴覚障がいの方、車いすの方等、様々な方が利用している
 - ✓ サークルに最近来ない方がいると、骨折していた、入院していた等、後から気付くことが多い
- 公民館と自治会を週に 2 回ずつ利用していた方が、孤立死で亡くなり、3~4 日後に見つかった。地域の中で、少しの異変や気づいた時に支えることができなかったのか。また、公民館に来ていない方で、より孤立して、課題を抱えている方も、沢山いるのではないかと感じた
- 那覇市
 - ✓ 総人口は 323,259 人（平成 30 年）で、平成 32 年以降は減少する見込み
 - ✓ 平成 22 年の 65 歳以上の高齢者総数は 89,927 人となり、0~14 歳の人口より多くなった。今後も増加する見込み
 - ✓ 1 人暮らしの高齢者は 11,367 人（平成 22 年）
 - ✓ 那覇市内の孤立死は、平成 25 年 1 月~10 月の 10 ヶ月間で 93 人であった。年々増加傾向にある（65 歳以上が 7 割）
- 繁多川地域の総世帯数 4,575 世帯のうち 223 世帯が独居高齢者（65 才以上）
- 地域包括支援センターでは、65 歳以上の方々のよろず相談や、健康づくり教室を開くこと等を行う。日常は、悩み相談、介護の相談、認知症の相談が中心になる
- 繁多川には、マンションや県営、市営住宅があり、その住民は自治会とは別の組織をつくっている
- 全国 3 千名の方（無作為）に、一人暮らし高齢者の幸福度調査（内閣府、平成 26 年度）を行った結果、平均値は 6.6（10 段階評価）であった。不幸より幸福と感じているの方が、若干多い。実際、独居の方=困っている方との感覚ではない。一人暮らしができるくらい元気のある方、と捉えている
- 繁多川の老人クラブの参加者は大多数が女性である
- 高齢者の交通弱者は、役所や病院に行きたくても、バスがないことや、タクシーも費用が掛かるため、行くことができない。このような、公の支援が必要な方もいる
- Geshuku プロジェクト（以下：下宿事業）
 - ✓ 独居者宅の空き部屋に、離島等から那覇市近辺の高校に進学する子ども達が、独居者（以下：大家）と一緒に住む。子ども達の進学支援をしながら大家さんの見守りや、大家さんが地域での役割を実感しながら過ごすことを目的としたプロジェクトである
 - ✓ 1 年目（平成 27 年度）は公民館事業として行い、2 年目からは法人の事業に切り替えた。平成 28~29 年度はトヨタ財団の助成を受けている
 - ✓ 3 年間で、のべ 11 名の高校生が関わった
 - ✓ 離島で高校が無くて、島を離れ他所の高校がある地域に行く高校生は 3 学年で 600 人はいる。その子達の負担は月額平均 81,000 円と言われているが、下宿事業を受けた子達は約月額 40,000 円に抑えられた
 - ✓ 与那国出身で沖縄工業高校の高校生は、夏休み期間の 3 年間、下宿事業を利用した
 - ✓ マッチングで大変なことは、大家さんの要望として、同じ島出身の子や男女等の指定がある時。また、保護者の側も、大家さんにしつこく要望する時があった。生活習慣の違いが気になると、途中で断念することもあった
 - ✓ 設備の問題はない。法人が事前に大家宅を視察する
 - ✓ 広報の仕方は、地域の口コミと、新聞のおり込みチラシ 8,000 枚を 5 回配布した。しかし、説明会に来るのは 0~1 人だった
- 高齢化率 50%を超える団地の電灯交換と家具修理、高齢者の見守りボランティアに、下宿事業利用者の高校生が呼びかけて、12 名の高校生が来た
- 大家さんは地域で声をかけられるようになり、料理教室等のサークルを立ち上げる等、地域での活動が広がった。下宿事業後も、地域や公民館との繋がりが残る
- 大家さんの体験談
 - ✓ 「今日は、部活があるためお昼は要らないよ」等、コミュニケーションを取りながら朝・昼・晩の食事を一緒に食べていた
 - ✓ ご飯の準備は大変だったが、子ども達は洗濯等、身の回りのことは自分で行い、家も沢山片付けてくれた
- (株) CCC ローカルのサービス：T カードをお持ちの方を対象に、無料で情報受信用のタブレット端末を配布している。沖縄県内の 1 万世帯に配布した
- 自分で子ども達から離れ、繁多川地域に移って住んだ方等、自分で選択をして、独居になる方もいる

評価の提供

- 本人が望まずに、結果的に独居になった方は、孤立するリスクが高いと思う
- 大家さんが得たこと：預かることによって、自分の生活にメリハリができた。前向きに学業に励んでいる子ども達の姿は、応援してあげたいと思える。離島から来る子ども達は希望に燃えていて、将来の話等を聞くと感動する。3年間預かった子は、孫のように感じている。生きがいになった
- 切羽詰まらなないと、助けを求められない人もいる。特に高齢期になると、新しいことを始めようとしても、行動を起こすことが大変だと思う
- 独居の方は、人とあまり関わりたくなく、プライバシーが守られた状態で静かに暮らしたい方が多いと思う
- 独居を勝ち取ってきた人も、関りたくても難しかった人達も、地域には色々な人がいると感じた
- 下宿事業は、子ども達の管理責任もでてくるため、本当に支援が必要な高齢者は、大家として受け入れが難しい
- 若い人達との交流は、若さを保つことになり、必要だと思う。大家さん自身も元気になったのでは
- 障がい者や子どもの居場所に集まる子ども達等の多くは、公民館や地域の活動に出ることを、ハードルが高いと感じている。そこから一歩踏み出すのに、何年もかかる人もいる
- 地域への関わりにハードルを感じる方との接点づくりについて、公民館を利用する障がい者支援等を行う方や地域の方々と一緒に、議論し続ける必要性を感じた

視点の提供

- いきなり一緒に住むことはハードルが高い。1日～1週間のお試し期間を作る等、人同士の関わり方は、段階を経る必要があるのでは
- 繁多川には、料理が上手な「すぐりむん」認定者がいる。食事の提供はその人達を活かして、分業すると良いのでは
- 繁多川には「すぐりむん」認定者が85名いる。その人達に役割を作れば、協力するきっかけになると思う
- 仕事の定年後、地域と接することができない方達を、どのように関りを持ってもらうかは、どの地域でも重要な課題である
- 男女の差を考慮した、関り方の仕組みが大事だと思う
- 男性は理由がないと外に出ないため、「子ども達や地域のために、一肌脱いでくれないか」とお願いする等の工夫をしたら、引きこもっている高齢の男性を外に連れ出せるのでは。例として、庭木の剪定や家電の修理等は、男性の役割になるのでは
- 新聞配達員は、毎日家をまわる。そのような人達と繋がり、情報共有を行うのが重要だと思う
- 地域のパン屋等に協力を得て、子ども達が学校の帰りに、パンを独居の方に運んで回ってはどうか。そして、独居の方からハンコを貰い、ハンコが貯まると協力店舗の割引に使えると良いのでは
- お店と提携して、独居の方を見守りながら、地域にお金が落ちる仕組みを考える必要がある。ボランティア精神で行うのではなく、地域が潤うために行う
- お年寄りに対する詐欺もあるため、どの程度関りを持つべきか考える必要がある
- 地域振興のためには、ご近所同士で仲良くなることが、一番原点にあるのでは
- 独居の困りごとが、団地だから見えてくるもの、住宅街だから隠されて見えないものもあるため、団地と住宅街の高齢者支援方法は違うと思う
- 自立して70代まで働いている方々もいる。そのような方々の力を借りれるのでは
- 独居の男性が地域のサークルに参加したが、サークル後のお茶や食事のお金が賄えないため、サークルに行かなくなった。貧困が原因で社会との繋がりが希薄になるケースがある

事例の提供

- 福井市で高齢夫婦とみられる遺体が死後1カ月ほど経過して見つかった。独居だけではない孤立もある
- 宜野湾市伊佐区では、災害時に助けが必要な方を地域の方で調査した。このように、テーマを元に接点を探すと繋がりが増えると思う

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 独居＝社会課題ではなく、何らかのきっかけで誰かが社会から孤立してしまったときに、それを知らないことが課題
- 地域の中で、何らかのつながりを見いだせず孤立してしまっている方々を可視化し、いざという時のために共有していこう
- そういった方々を孤立させずに地域社会に参画させることの意識を持ち、その参画方法の多様性を模索していこう

■参加者によるサブセッション

「独居でも生きやすい地域とは何か、公民館と考える ～「Geshuku」プロジェクトを通じて見えてきたもの～」(原文のまま)

- ① 池間島への助成事業 つながりづくり
認知症の方がどう地域で暮らす
アクセスする方法
食をとおしてのつながり(百均食堂)男性の
ための
⇒組み合わせ
- ② 個々の生活(ライフスタイル)を理解する
→声を出せる
→一歩踏み出せる
→ニーズがみえてくる
- ③ 独居にならないような活動(予防)は.. ?
三世帯で住めるような仕組みを!
 - ・住宅
 - ・税金優遇男性の参加
 - ・交通の便
 - ・免許の返納後...
 - ・コミュニティバスの充実!!!
 - ・市の乗り合いタクシーの拡大
- ④ 多様性⇔国を超えて行動が一様している
ライフラインは人間関係(世代を越える)
タブレット→世帯(リビエブ)
200人の把握
一人一個だと家族との会話がすくなくなる
- ⑤
 - ・部屋が空いていたこと(子供5人分)
 - ・受け入れに問題はなかった(男性のみ下宿)
 - ・空けておくよりは良い
 - ・負担→毎度の食事、メニューを考えるのが大変
部活、テスト、その他、各人のスケジュールに合わせること
 - ・自治会のスグリムニを活用したいが(ボランティアの人材をつなげることがむずかしい)
 - ・子供の実家からも感謝されて人のつながりが広がる
 - ・大変さに変える→喜びを新しく見つけることができる
 - ・下宿プロジェクトを広げたいが引き受ける先(自治会として)が見つかるのか問題
- ⑥
 - ・昔も下宿は首里でもやっていた
 - ・自分で炊事せんたくしてた
 - ・食事の提供は同じようにはできないが、分担ならできる。食事は食堂いってなど
 - ・独居の方、困っていない人もいる印象的
つながりが大事なので...
 - ・負担をだれも感じないやり方は!
 - ・一人暮らしでは、週1回友達とランチしている。土地のかんり、銀行(80代)

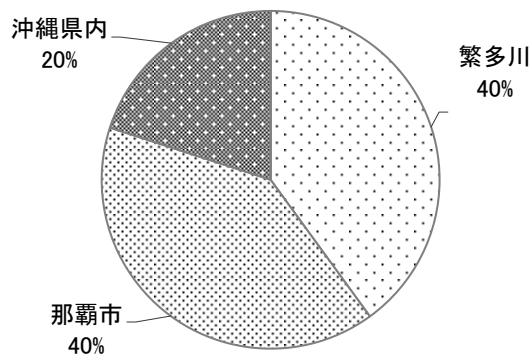
孤立と向き合う地域づくりを考える地域円卓会議 in 繁多川

参加者アンケート集計

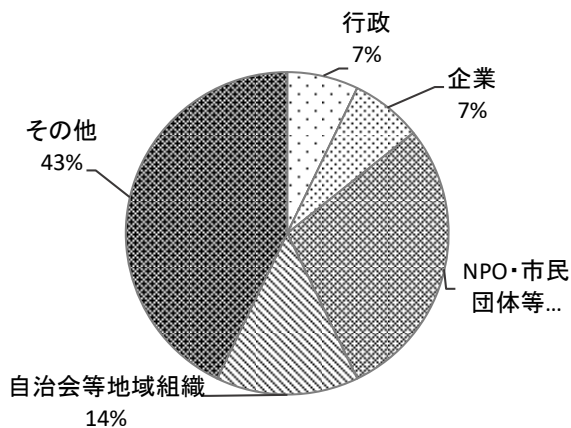
◆概要

- ・日時：2018年1月28日(日) 14:00-16:30
- ・場所：那覇市繁多川公民館 ホール
- ・着席者：9名(論点提供者、司会、記録者含む)
- ・参加者：21名(アンケート回収15名、回収率71%)

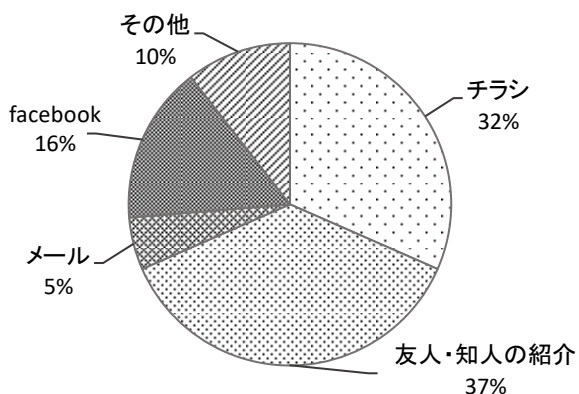
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.5 (5点中)

5.満足	4.概ね満足	3.ふつう	2.あまり満足していない	1.不満足
4名	7名	1名	1名	0名

5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・ 色々な考え視点をしることができました
- ・ 現状・問題点解決策について把握ができた事。
- ・ 公民館さんには日頃からお世話になっていますが、GeShuKuに注目したことはなかったので... 毎日、日々の見守りというのがある意味新鮮に感じました。
今、月に1度の見守りからスタートを厳しい状況なので... しかし、時代は待ってくれないので、やり方を探して、見守りのある地域を築いていく手伝いをしていきたいです。
- ・ 独居老人の問題を多面的に議論することで、地域社会の在り方や人間関係を構築する難しさなどがわかりました。
公民館が地域社会、住民の「つながり」を強化する役割をになう可能性についても考えさせられました。私は地元の自治会と役員をやっていますので、今後の活動に生かしたいと思います。

(4. 概ね満足)

- ・ 家主さんの生の声が参考になりました。
- ・ 各参加者の視点の話が聞けて良かったです
- ・ 課題がハッキリしていて、その問題をどう解決するのかを、自分の資源をどう活用できるのかを考えやすい。
- ・ 色々な立場の方の意見を聴くことができ良かったです。
- ・ 地域の見守りが必要な事は痛感しました。
自治会としての守備範囲はどこまでか
近所付き合いがやりやすい地域を作るのが重要なかな (各班の活動を活発にする)

- ・ 色々な意見が聞けて、楽しく勉強になった。

(3. ふつう)

- ・ 独居の人と公民館とのつながりがよくわからなかった。

6. 印象に残ったこと

- ・ 独居を勝ち取ったもの
公民館でさえハードルが高い人もいる。
- ・ 地域の課題の情報共有としてタブレットを使ったりすることで、独居の方の見守りにつなげていく
対象となる方（独居の方、利用する学生）だけではなく、地域の自治会や企業をまきこんで、その課題にとりくんでいくのは、地域の課題としてシェアできるのなどいいアイデアだと感じた。
- ・ 下宿プロジェクトは独居老人の解決、離島の高校間の解決につながり良いと思いました。
- ・ GESYUKU プロジェクトの役割分担⇔部屋の提供、食事の提供 est
お店の PR をタブレットで、協力店舗のネットワーク構築
- ・ 男性に役割がないと参加しないというのは参考になった。
- ・ まちワクさんのチラシ？社協にも送っていただけたりしないんでしょうか...
- ・ 負担を分担していく
すぐりむんのまさーむんつゆくやーの活用
地域の方の顔の見える関係づくり
- ・ CCC ローカル株式会社の活動で「個人」ではなく世帯ごとにタブレットを配るというアイデアが印象にのこりました。
家庭内でさえバラバラな現代社会で、まず家族から人間関係を構築するのは良いと思います。これが地域社会に広がれば独居問題解決への糸口となると思います。

(写真) 会場の様子



孤立と向き合う地域づくりを考える

地域円卓会議

2018年1月28日(日) 14:00~16:30
那覇市第2公民館

主催: NPO法人 15人井戸端会議
公益財団法人 トヨタ財団 助成事業

地域でも生きやすい
地域とは何か、
公民館と考える
〜「Geshuku」プロジェクトを
通じて見えてきたもの〜

平良 佐久本 南 新垣
岩田 渡口 渡平

地域の困りごと
社会課題とい共有35場
「地域」そのものが「多岐」なことではない
支援が必要とする人々 1137人見えた

論点提供

人口 へていく 31万人
65歳以上 増えている 那覇市
9万人 1人で暮らし 1万人
93人 那覇市 100人
4575世帯 223世帯
独居高齢者 独居高齢者

● 独居高齢者
たいていは、孤立
● 独居だけでもない
高齢夫婦

65歳以上 利用者増加
那覇市 公民館 市内7館
福祉サービスの困窮等の地域課題
コミュニティ支援
地域のつながりがつくり 求められている
週2回までの方が 孤独死で
なくなった
気がつかないとき
支えることで生きがいが
ある
近所で
交流の場を
つくれる方が
多い
みえていない
ことも
あるのでは
接点も
ない人

Geshukuプロジェクト

本当に支援が必要なのは
受け入れにくい 生活習慣

● 1日1食いかに人へ
● 1年: 公民館事業
● 2年: 法人事業
● 8,000円 → 40,000円におおき
● 11名の高校生(女) 関心
● 3年: 今年国出身、身体が
沖縄工業高校

● 1日1食いかに人へ
● 1年: 公民館事業
● 2年: 法人事業
● 8,000円 → 40,000円におおき
● 11名の高校生(女) 関心
● 3年: 今年国出身、身体が
沖縄工業高校

● 1日1食いかに人へ
● 1年: 公民館事業
● 2年: 法人事業
● 8,000円 → 40,000円におおき
● 11名の高校生(女) 関心
● 3年: 今年国出身、身体が
沖縄工業高校

新垣さん

Geshuku 大活躍者

チラシをみて説明会へ
5人の子を育ててきた / 空室部屋あり
子どもたちの出会いは感動
生きがいに メリハリ
若い子との会話は 1分1秒
朝昼晩の食事と一緒に
ごはんが 大変だった
孫のように感じる
離島からの子は希望にもなる
部活のこと、将来のこと話した

周囲の人は「大変なへて
いかに、おすすめていかに
大変なかもしれないけど
出会うと、ある

● 1日1食いかに人へ
● 1年: 公民館事業
● 2年: 法人事業
● 8,000円 → 40,000円におおき
● 11名の高校生(女) 関心
● 3年: 今年国出身、身体が
沖縄工業高校

濱川さん

地域包括支援センター 那覇市 所長

● 悩み相談、介護相談が中心
● 元気な高齢者との接点が少ない
● 独居の方 多い
● 1人で生活している人
● 1人で生活している人
● 1人で生活している人

男性・独居
○のサークル、行くが
行かなくなる
活動後のゴミおろすの費用
が負担が大きいというケースもある
貧困との関連

● 1日1食いかに人へ
● 1年: 公民館事業
● 2年: 法人事業
● 8,000円 → 40,000円におおき
● 11名の高校生(女) 関心
● 3年: 今年国出身、身体が
沖縄工業高校

渡口さん

CCC カルテット 那覇市 所長

タブレット端末配付
→ ローカル情報の提供
→ 広告 運営
→ 回覧板のようなものを想定していたが
wiiで使えない、自治会加入率など
まだではない

● 1日1食いかに人へ
● 1年: 公民館事業
● 2年: 法人事業
● 8,000円 → 40,000円におおき
● 11名の高校生(女) 関心
● 3年: 今年国出身、身体が
沖縄工業高校

岩田さん

沖縄国際大学 教授

● 多様な生き方と向き合ってきた
● 公民館への関わりも多様
● 障がいがある人、貧困の状況にある人
と地域、公民館へ参加する人との
関係性
● 関わりは段階的
● かつてきた人も
かかわりたててもいい人たちが
いる

● 1日1食いかに人へ
● 1年: 公民館事業
● 2年: 法人事業
● 8,000円 → 40,000円におおき
● 11名の高校生(女) 関心
● 3年: 今年国出身、身体が
沖縄工業高校

佐久本さん

沖縄テレビ放送 19年リーダー

● 台風のとき
● 新垣さん、安心、ご家族も安心では
● 男性で地域にどう関わるか
はとて共通の課題
● 交通弱者などの困りごと
● 団地と住宅街
とて方法がまちがう

● 1日1食いかに人へ
● 1年: 公民館事業
● 2年: 法人事業
● 8,000円 → 40,000円におおき
● 11名の高校生(女) 関心
● 3年: 今年国出身、身体が
沖縄工業高校

池内島への助成事業 つまみ
つくし

認知症のちがどう地代で暮らす
アクセスする手法

食を通じたつながり (食の食堂)
男性のための交流

⇒ 組織化

個々の生活と理解 (ライオンスタイル)

→ 声も出せる

→ 一歩ふみ出せる

→ ニーズが見えてくる

独居にならないような活動は...?
(予防)

三世帯を住めるような仕組みを!

・住宅
・税金優遇

男性の参加

・交通の便

・免許の返納後...

・コミュニティバスの充実!!!

・市の乗り合いバスサービスの拡大!

多様性 → 国と自治体
行政の連携
で

ライオンは

人間関係 (個性
重視)

90年代後半 (1990年代)

2000年代 (把握)

一人一人と
各社との会話が
大切だ。

部屋が空だった事 (子供5人)

・受け入れに問題なかった (男性のみ
下宿生)

・空いていた方がいい

・負担 → 毎月の会費、XNUMX万円
かかると、生活

・自治会のスクリュードライバー (各人のスケジュール
に合わせて)

・ボウテラの人材をつづける事が
大切なこと

・子供の更家 (18歳) 感謝されて
人のつながりが広がる

・大変さを感じる → 責任を重く感じる
ことになり

・下宿ついでにプロジェクトを支援し、
必要になる先が、自治会問題
(自治会と)

・昔は下宿は前と違い
なかった。

・自分で炊事せんべいを作った。

・会費の提供は、同じように
ではないが、分母は

で、会費は会費として

・お金の方、国と関係ない人との
印象的。

・つながりか、大事なことで...

・負担と責任は同じで、やり方は!

・1 (若し) は、国1回 費を
うけている。土地の購入、銀行 (80代)